

2 【田澤 哲哉 先生（西が岡小）の提案】

視点1：「子どもの予想と見通しから創り上げる学習計画をもとにした単元づくり」について

◎時期や時間の経過の視点を児童に示したことで、「変化」をもとにする「単元を見通す学習問題」をつくることに有効的だった。

△単元で指導すべき事項を網羅する「単元を見通す学習問題」をつくらうとしてしまった。
子どもが主体的に学習を進めるための「単元を見通す学習問題」をつくる手立てとは？

視点2：「本気の学習問題を追究し、社会的事象の意味に迫る授業づくり」について

◎工女を取り上げることで、子どもたちが切実感をもって考え、意識のずれから「本気の学習問題」をつくることができた。

◎和田英さんと自分とを結び付けて振り返る姿が見られた。

△工女の立場に加えて、明治政府の立場でも、多角的に考える手立てが必要だった。
多角的に日本の近代化について考える手立てとは？

(意見)

→2つの資料を提示して比較したことで、「開国をして、———」という学習問題は、子どもの思考に沿っていて、練り上げられている。

→工女の働きの過酷さは、取り上げていないのか。

(提案者から：どちらかという、優遇されている。喜んで労働に行ったことに重きを置いた。)

→工女⇔政府の視点の切りかえについて。工女に重きを置きすぎると、政府に切りかえづらい。夢中になればなるほど、視点の切りかえは難しくなる。人の営みを切り口に、政府がどのような国づくりをしていったのかを意識しながら、授業づくりをしていくことが大切。

→個を具体的にすれば、全体にも広がっていくと思う。

例：5年の食料生産

一人の農家を取り上げて、学習をする。→日本の農業人口が減っている。→本気で取り組んでいる人が〇万人も減った

個を具体的に学習することで、全体の見方も変わってくる。

3 加藤 純 先生より

・『提案授業の売りポイント・こだわりポイント』を明確にすると、よりよい発表になる。

・振り返りについて。全国のみなさんも気になるところ。一緒に考えていく必要がある。